

令和5年度 第3回中津川市総合計画推進委員会 主な意見

日時：令和6年3月22日(金) 13:00～15:00

場所：ひと・まちテラス2階 活動室201

【報告】

中津川市総合計画後期事業実施計画の改訂について

説明

(事務局より「【資料1】総合計画後期事業実施計画の改訂について」により説明)

質疑

・なし

【議事1】

令和5年度総合計画推進委員会提言書について

説明

(委員長より「【資料2】令和5年度総合計画推進委員会提言書」により説明)

- ・令和5年度に16の事業について現地視察を行いながら、検証を行った。
- ・各部会の報告については、令和5年度総合計画推進委員会の提言書にまとめられている。
- ・今年度は中期事業実施計画自体を振り返るとともに、昨年度は2つだった部会を3つに増やして、リニアの宿場をつくるまちづくりに関連して、5つの事業、中心市街地のにぎわいをつくるまちづくりに関連して5つの事業、人の流れを地域に導くまちづくりとしまして6つの事業をテーマに、部署横断的な意見交換や質疑応答が行われた。
- ・現地視察により、委員も書面だけではなく、実際の状況を確認しながら、改善に対する質問・評価などを行った。詳細については、それぞれ記載されているので、そちらを参照いただきたい。
- ・各部会において共通して指摘されている点として、情報共有に問題、課題がある旨が各部会から報告されている。
- ・外部へ、また市民への情報共有の重要性が指摘されており、事業の進捗も大変重要ではあるが、それが市民、また外部の方に周知されることで、事業のさらなる発展につながる。
- ・中津川市は、他の自治体と比較して、以前から情報発信が得意ではないということを言われている。本委員会でも情報共有についても留意し、今後の検証を行っていききたい。
- ・後期事業実施計画が、今年から始まった。中期事業実施計画の際に問題とされていた指標の整理などがしっかりなされたので、またどこを重点的に考えていくのかなど、評価すべき項目があれば、ぜひこの委員会にも共有して、令和6年度の評価に結びつけていきたい。

質疑

・なし

決議

- ・資料2の通り令和5年度総合計画推進委員会の提言書を定める

【議事2】

中期事業実施計画評価書について

説明

(事務局より「【資料3】中津川市総合計画中期事業実施計画(令和元年度～令和4年度)評価書」により

説明)

質疑

・なし

決議

・資料 3 の通中津川市総合計画中期事業実施計画(令和元年度～令和 4 年度)評価書を定める。

【意見交換】

・中期事業実施計画の評価は令和元年から令和 4 年までの 4 年間で振り返り、若者の定住推進というところについて、アンケート調査などから分析を行ったが、地域によっては人口の問題からアンケート調査ができていないところもあるので、しっかり若者の声を聞く仕組みなどが重要である。

・分析の中結果として、産業振興や職業の選択などについて不満を持っている傾向があるので、今後、そういった点を改善していくことで定住、または一度市外に転出しても戻ってきてもらえるような地域になっていくことになると考えている。

・提言をいただいた「情報発信が得意ではない」という点について共感しており、市として市民の皆様と情報を共有していくことについてやらなければならない点が多いと実感している。

・世代によって、どのように情報を発信するかによって伝わり方が全く異なる。そのため、情報を受ける側の立場になって考えていかなければいけない。

・人口減少は重要課題の 1 つであり、定住を推進していく様々なやり方について若い方や様々な地域の意見を伺うなど、市民の声をしっかりとキャッチしていかなければいけない。

・リニア開業に向けての基盤整備や、定住推進、医療体制などやっていかなければならない課題が本当に多いが、これを解決するには市だけではなく市民の皆様とのアイデアをしっかりと聞いて、それを市政、政策に反映させていく取り組みを一緒に考えて、それをまちづくりに落とし込んでいければ、より関心を持ってもらえる。そんな施策、取り組みができないかなと思っている。

・今、中津川市はリニア開業というチャンスを得ている。このチャンスを活かすには市民の皆様と一緒に頑張って、これからのまちをどのようなまちにしていけば楽しいまちとなっていくか考えていきたい。

・情報発信は大事である。どれほどいいことをしても知られなければ何もやっていないことと同じ。情報発信をしないと、一気に人気落ち、逆に良質な情報を発信していると、一気に盛り返せる。何か上手な情報発信をいろいろな情報媒体を使い、若い子を巻き込んで、10 年 20 年という長いスパンでやっていくことが大事である。

・東濃地域は全国の有名な自治体に比べて情報発信が特に上手だということはない。中津川市も東濃のトップに躍り出ることには難しいことではないので、自信を持ってやっていただきたい。

・中津川には大学があるので、大学を卒業して中津川で就職できる魅力のある企業がたくさんあるという状態にしていけると中津川という町がよりよく変わっていくのではないかと。

・農業は生きていくうえで、また、環境の面でも大事である。しかし、昔からの土地を守っているという方法では儲からないため、継ぐ人材が少なくなり、衰退していつか危惧している。農地を守るために、若い方を他地域から取り込んでやっていけるような方法を考えていけるといい。

・情報発信については同じように苦労している。求人者は、通常の業務に加えて採用活動をしなければならず、PC 操作に慣れていない求人者は苦慮している。

・職場においても、人員が入れ替わっていく中で、安心して任せられるということは年齢も重ねているということでもあり、情報発信については苦手意識がある。年齢の高い方の利用が多いということもあるので、しばらくは紙とデータの両方で発信を行っていくしかない。

・何事を行うにもお金はかかる。その財源の調達には、税以外にも多様な方法がある。例えば企業版のふるさと納税、個人のふるさと納税、それ以外にもクラウドファンディングなど、それ以外にも様々な財源の調達方法を考えて実行していただきたい。

・岐阜県は女性が起業する割合が少ない。起業すればいいというものではないが、多様な働き方という考え方で言えば、そういったところへの支援を商工会議所、商工会、銀行等とも連携しながら行っていきたい。

・中堅企業、中小零細企業ともに事業承継という問題を抱えている。残していかなければならない事業、業種、職種等については、しっかりと見極めた上で、力を入れていきたい。

・今いろいろなデジタル化が進んでいるが、まだまだ紙ベースのものも多い。これらについて簡単に、スピーディーに対応できる仕組みを作っていく必要がある。

・農業について、新規で農業を始める方と、最近始めた方の合同の交流会があり、自然相手の事業は収入が安定しないという意見があった。冬場の収入をどうするのかというような切実な話の中で、参加者の方々が様々なアイデアを出し合いながら共有をしており、やはりそのような場があることは非常にいいことだと感じた。農業は絶対に無くてはならない業種であり。やはりそれができるのはこの地域の強みである。しかし、それを活用していくには工夫が必要になる。作ってもそれを売る場所、販路や、年間を通じて収入を得る仕組みも作らなければいけない。冬に人手が欲しい業界もある。そういったところとタイアップをして、冬は冬で収入を得るやり方もあるのではないかと考えている。農業、林業、畜産業など、さまざまな業種と情報を共有し、連携をとりながら進めて行けると良い。

・農業は、農地を守っていくために集約を目指しているが、個人の農家が数多くあり、引き継いだ土地を人に預けることに抵抗がある人が一定数いる。そういった方たちへの支援があってもいいのではないか。

・事業継承について、さまざまな支援を各部署で取り組んでいる。中津川市として産業を承継していくことを重視していくならばそれらをまとめた部署を作り、ワンストップで対応できる体制を整えると、中津川市はそこを重要視している。本気で取り組んでいることが見えて、情報発信にも結びついていくのではないか。

・若者に対して情報を伝えるのはどうしたらよいかを考えて行かなければならない。若者は自分のキャッチしたい情報しか取りにいかないところがある。例えば新聞などは掲載されている広告や、自分が求めていなかった記事が目に入るなどの付加価値的なものがあるが、若者たちの情報の取り方はそういった要素が薄いと感じている。その中でいかに関心を持ってもらえるのかを考えていかなければならない。

・現実として可能かどうかは別として、例えば選挙について、今、高校で模擬投票のようなことを行っているが、これを模擬ではなく、本当の投票を高校で期日前の1日や2日でよいので実施する。また、人が集まるようなルビットタウンやJR中津川駅などの人の集まる場所でやるともっと関心が集まるのではないか。もちろん選挙に関してはセキュリティの問題などあるため実現が難しいこともあるが、市に来てくださるのではなくこちらから行きますという考え方でやっていると、情報の共有の仕方もまた違っていくのではないか。発信が不得手なところは、もっといろいろなやり方、アイデアをさまざまな方からお聞きして実践していくとまた変わっていくことができる。